



春夏秋冬

2017
vol. 7
季刊発行

eco 情報



「プラマード U」

今ある窓はそのままに、内側の木額縁に樹脂製窓を取り付け、冷暖房効果や防音性を高めます。

冬になると浴室が寒いとか、寝室の枕元が寒いとか、リビングの窓の結露がすごいというご相談を、お受けします。お客様はペアガラスにしてはどうでしょうかと言われますが空気層をいかに厚く取るかが断熱効果に反映します。

和室の障子が紙一枚でも温かいのは、ガラス戸と和紙の間の空気層が空気を保温してくれるからです。効果は抜群です。是非ご相談ください。

ワン ジャ サイ カン 王家菜館

中田家の嫁、王さんが教える中国の家庭料理。ぜひ試してください。



file No.007「水餃子」

中国では餃子には特別な意味があります。「餃子」文字の中に「交」があるように新旧が交わる年越は「ソバ」ではなく「餃子」なのです。もう一つは昔の金貨と餃子が同じ形をしていたのでダブルでめでたいのです。



年末に家族が集まり、みんなして作る餃子は家族団欒のシンボルです。

材料 (30 個分)

手作り皮	30 枚	塩	少々
豚ひき肉	250g	卵	2 ケ
ニラ	1 束	調味料	少々
エビ	50g	ごま油	少々

- 作り方
- ①皮を手作りする
 - ②ニラをみじん切りにし、ひき肉を加えよく混ぜる
 - ③卵をたっぷりの油でふわふわに炒める
 - ④ニラ、ひき肉にふわふわ卵を加え、塩、調味料、ごま油、水を加えよくかき混ぜる。
 - ⑤皮にネタを包む、つつみ方は自由に
 - ⑥沸騰した、お湯に餃子を入れ、浮いてくるまで茹でる。お皿に盛って出来上がり。
- ふわふわ卵を加えることで食感が良くなり子供でも食べやすくなります。是非お試しください。

2020年 Zero

自然エネルギーを利用して快適・健康的な住まいに必要なエネルギーを正味ゼロへ！

暮らしに必要不可欠なエネルギー。将来の世代も豊かに暮らし続けられる社会とするために、自分たちが使うエネルギーを太陽光発電で正味ゼロにする暮らし。



前回からのゼロエネルギー住宅の続編。「住まいは幸せの器です。」

健康は「衣」「食」「住」すべてが関係しています。寒さ厳しい冬、「衣」は温かい衣服をまとい「食」は体温まる食事に気を付けます。「住」では暖房がある部屋は限られます。家での年間死亡者数は夏は少なく冬は多くなります。入浴時に限らず住宅内の転倒や転落など不慮の事故による死亡者数は2014年には1万4500人に上り、交通事故の3倍以上、火事の20倍以上になります。

冬の室内低温が一番の問題です。夜寝ていてトイレに行く時、布団の中から廊下、トイレの温度は10℃以下になっています。お風呂に入るときも、温かい部屋から脱衣所で裸になり体温は一気に下がり、浴槽でまた一気に温度が上がります。体に良いとはいえません。解決策は住宅の断熱性能の向上にあります。冬は暖かい衣服を着用するように家も断熱性能を上げる必要があります。断熱材は壁だけでなく、床下、屋根はもちろん開口部、窓も断熱性能を上げる必要があります。

大切なことは室内を全部同じ温度にして24時間続けることです。贅沢ではありません。健康のためです。エアコンではなく家にその性能を求めるのが正論なのです。ソーラーサーキットの外断熱・二重構造の住まいならば快適で健康的な生活をお約束します。「冬の体感フェア」で実感してください。お待ちしております。

このたび当社「体感ハウス」にも、ソーラーパネルを設置しました！

イベント案内

小山建設は夏涼しく冬温かい外断熱・二重通気工法「ソーラーサーキット」をおすすめしています！



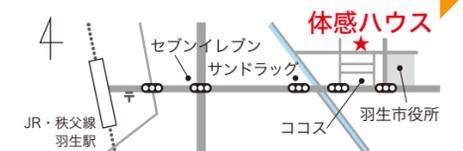
平成29年 2/5 日
住まいの耐震博覧会
午前10時 羽生市役所前より出発
会場：東京ビックサイト
参加費：無料
＊帰りは話題の築地市場でお買い物



平成29年 2/11 土・12 日
冬の体感フェア
午前10時～午後4時
会場：当社体感ハウス
＊薬膳教室も開催予定



ソーラーパネルの設置の様子を中ページで掲載！



羽生市東6-5-13 ☎048-563-1123

三代目通信

2年生最後の設計課題は「三世代住宅」。家族構成と敷地設定に数々の課題が見え隠れするが、どこまで読み取れるか、

人生経験がない分たくさんの書物からくみ取るしかない。

せいぜいがんばれ！ 成人おめでとう！

ソーラーサーキットの家



発行：有限会社 小山建設
羽生市中央2-6-3
☎048-561-6878
info@e-hous.co.jp
編集長：中田 新一

●web もご覧下さい
<http://www.e-hous.co.jp/>

事例紹介 Report 太陽光発電レポート

今まで仕事としてお客様に薦めていた太陽光発電ですが、今回は当体感ハウスに設置することになりました。一般的な不安要因としては、設置費用と売電価格、屋根への取付方法とパネル荷重の問題などがありました。

工事費

5.5KW 1,355,700円

1KW当たり 246,490円

(この中には足場代、モジュール代、取付費を含みます。)

出始めのころは1KW100万円と言われていたので、今はだいぶ価格は下がりました。パネル代換算では5年で費用の回収が期待できるとのこと。パネル荷重については1㎡当たり約12Kg。例えると屋根に4cmの雪が積もった位ですので大した重さではありません。

工事の流れ

- ・現地調査をして工事費の見積もりと採算予定。
- ↓
- ・補助金等の手続き。
- ↓
- ・工事の安全のため足場を組みます。
- ↓
- ・瓦の上にパネルを留めるレールを固定するため、瓦にボルトの穴を開けます。
- ↓
- 瓦にボルトを通して、雨仕舞をきちっとしてからレールを設置します。
- ↓
- レールの上にパネルを設置し同時に電気の接続も行います。
- ↓
- ・最後にパネルが正常に動いているか通電チェックをして工事完了。
- ↓
- ・東京電力に売電の手続きをして数日して稼働します。

工事を終わって、足場組も含めて作業員の多さにびっくりしました。1枚17Kgのパネルを24枚設置するわけですから、地上と屋根で人数が必要になります。

7月に設置して約半年、月の売電が12,000円、使用電力が9,000円、余った電力分の月3,000円入金されています。

モニターに数値が出ますので、日々電気には気を遣うようになりました。自宅で太陽光の設置をやることで知ることがたくさんありました。台風や地震など自然環境に厳しい日本ですが、太陽は一年を通して優しく降り注いでくれます。

皆様も是非ご検討ください。



足場の設置



瓦にレールを留めるための穴開け加工



屋根にパネルを設置



設置が終了し、発電開始

地元・羽生市での取り組み

中国陝西省西安ツアーを企画しました

私はNPO法人まちおこし・はにゅう市場の代表理事と並んでもう一つの顔、羽生市日中友好協会事務局。今回は30年前に留学した中国のほぼ中央に位置する西安への里帰りツアーの報告です。



碑林博物館での集合写真



兵馬俑博物館



城壁雪景色



雪の大雁塔

北京が江戸・東京のように近代史の舞台なら、西安は平安の都・京都の模範になった古都。紀元前1,000年から紀元1,000年までの2,000年間、中国の都であり続けたスケールと時間は世界史上類を見ないグローバル都市西安。

その西安にある中国で一番有名な世界遺産である兵馬俑は、2,000年前中国を始めて統一した秦の始皇帝の陵墓を守る為に作られた等身大の陶製兵馬像があり、その数8,000体にのぼる。この兵馬俑を観るために世界中から人々が訪れる。西安市内には孔子廟が姿を変え「碑林博物館」となっている。ここには中国全土から集められた石碑が収蔵されている。気になった石碑の一つ「難得糊涂」

意味は「馬鹿になるのは難しい」なんともうんちくのあるお言葉。ここには先人たちの知恵と知識が詰め込まれている「知の収蔵庫」である。碑林博物館を出ると道沿いに「書院門」と呼ばれる筆や紙、硯などの書道道具が100店以上が軒を連ねている。ここでのお勧めはイタチの筆。腰があり使いごこち抜群。商品名「狼毛筆」は如何にも中国らしい命名。西安市内は一周14kmの城壁で囲まれており、城内だけで200万人が生活している。11月の大雪で、グレーと白のコントラストという珍しい風景に参加者一同大喜び。雪の中寒さも忘れて撮影大会に。思い出の一枚が撮れました。

西遊記でおなじみの三蔵法師がインドに渡り仏典を持ち帰り翻訳作業を行った「大雁塔」。経典を訳すため多くの外来語が生み出されたという。「般若心経」をはじめ多くの経典は、漢訳されたものが空海ら遣唐使によって日本に入り、文化の恩恵に授かっている。一点一点に魂がこもっていて観るものを圧倒する。まさに中国の歴史そのもの、日本文化にどれほどの影響を与えたか計り知れない。

街に出るとシルクロードの起点だけにイスラム人の多く住むイスラム街があります。そこはまるで台湾の夜市のように熱気であふれ、中国人の人気スポットになっています。2,000年の都を観るには、あまりにも時間が足りないツアーでした。

匠の仲間たち

わたしたちがいつもお世話になっている心強い匠たちをご紹介します。このコーナーです。

▶ file no.007

有) 千葉木工所
千葉 勝さん

PROFILE

生まれ：昭和38年
出身：羽生市



初代は、本家が材木屋で戦前戦中は中島飛行機の部品を制作していたので、その作業に参加していた。なので当時はだいぶ景気が良かったようだ。

戦後は独立して桐ダンスや建具を作り、二代目は建具に加えアルミサッシを事業に取り入れた。

現在の三代目は家業を継ぐことを前提に大学卒業後YKKで3年修行を積み、25歳で家に入り13年後に社長に。親が昔気質のワンマンだったので大変だったとのこと。

趣味は海外旅行。家業に入る前、一か月スペインを中心に欧州を回ったのがきっかけで、今まで25か国を旅した。結婚、子育てのため海外旅行は遠ざかっていたが、子育てがひと段落した今、旅行の虫がうずいている。

建具、網戸の張替、襖、障子の張替、なんでもご相談ください。